

公共施設を除排雪ボランティア

3月5日、町建設業協会（福田順一会長）が、公共施設の駐車場などで除排雪ボランティアを行いました。

この活動は毎年実施され今年で5回目。各事業所から約20名とシヨベルカーなどの車両が教育文化センターや役場、スポーツセンターなどの敷地内にある雪を排雪しました。

高さ2メートル程あつた雪山や狭くなつていた駐車場がキレイに排雪され、施設利用者から喜ばれていました。



キレイに排雪していただきました。ありがとうございます。

低脂肪・低カロリーでヘルシー

3月6日、コスミックホールで昨年から町内でダチョウウの飼育に取り組んでいる(株)オーストリッチ浦幌（大浦也須史社長）主催のダチョウウ肉の試食会が開かれました。

6月に初出荷を行う予定で、町民の方にダチョウウ肉のおいしさを知ってもらおうと企画した。町内の飲食



食の安全性の問題などからも、今、ダチョウウ肉が注目されています。

店で調理した刺身や寿司、ハンバーグなどの様々な料理が並び、参加者からは、「臭みが無く、さっぱりしておいしい」と好評でした。

浦幌女性あいフェスティ

3月7日、中央公民館で浦幌女性あいフェスティが開かれ、芸能発表、書道や短歌などの作品が展示され、大勢の町民でにぎわいました。

午前中は、地場の農畜水産品や手づくり食品のフリーマーケット、図書館ボランティアの絵本読み聞かせ、帯広市消費者協会の種田慈雨子会長の「食と安全と地産地消」と題する講演などが行われました。

午後からは、芸能発表が行われ、詩吟や舞踊などの正統派から町議会議員の皆さんのお笑い系など、趣向を凝らした発表がされ、会場を沸かせていました。



大勢の方が詰め掛けた地場産品などのフリーマーケット。

浦幌バレエ研究会など様々な団体が芸能を発表。



議会議員皆さんによる「爆笑系アミノ式」。

Town Watching

新たな一歩を踏み出す

町内の幼稚園、保育園、小・中学校で卒業（園）式が行われました。15日には、中学校で卒業式が行われ、7人が思い出を刻んだ教室を後にし、新たな一歩を踏み出しました。



浦幌中学校では9年間の義務教育を終え、ちよっぴり大人になった卒業生が、同校吹奏楽部の演奏で入場。卒業証書を受け取った後、一人ひとりが3年間の思い出、今後の決意などを述べました。涙で言葉を詰まらせながら、友だちへの感謝の気持ちを語るなど、感動的なものでした。



最後に別れの歌「そのままの君に」などを合唱しました。



定年退職する佐藤校長は1人ひとりにしっかりと卒業証書を手渡していました。

押し花絵づくり主婦ら11人が挑戦

3月17日、教育文化センターで押し花を素材として描く「押し花絵教室」が開かれました。

押し花絵は、幅10センチ、長さ15センチほどの画用紙の上に、ピンセットを使い、バラやかすみ草の花びら、小さな花を咲かせた野草などを並べてブーケ（花束）を表現。最後に額に入れて仕上げました。数種類の花が組み合わせられ、個性豊かに仕上がっていました。参加した主婦は、難しいけれど、自分だけの作品ができて楽しいですね」と話していました。



ピンセットを使い、色鮮やかな作品ができました。

楽しくヒグマに関する知識を学ぶ

3月21日、教育文化センターで「ヒグマの学校」が開かれ、子どもたち約20人がヒグマの生態などについて学びました。

講師は、浦幌ヒグマ調査会の佐藤喜和さんと野生動物教育研究室の遠藤真澄さんが務めました。

子どもたちは、ヒグマの毛皮や佐藤さんらが撮影したビデオ、ヒグマかるた、ヒグマすごろくなどで、楽しみながらクマに関する知識を身に付けていました。



ヒグマの毛皮などを使い、生態について説明する佐藤さん。